

七転八起

何が計画通りだ！計画通りい
かないから人生なんだ。よく覚えて
おきやがれ！（野原ひろし）

第 7 号

2019 年 10 月 7 日発行

9月に入っても暑い日が続きましたが、最近の朝夕の涼しさに秋を感じられるようになりました。学校の裏にある信夫山の紅葉はもう少し先になるとおもわれますが、季節の移り変わりを目の当たりにできる環境に感謝し、学校生活を送ってください。

さて、10月から衣替えと同時に後期を迎え、1学年の折り返し地点となりました。生徒の皆さんには、学校生活に精一杯取り組んでいただきたい時期です。前期は高校入学という新たな生活がスタートしたことで、手探りをしながら学校生活を送っているようにみえました。しかし、後期は学校生活にも慣れ、学習や部活動に腰を据えて取り組めるのではないのでしょうか。

また、緊張感が薄れ、悪い意味での慣れも出てしまいがちな時期でもあります。入学当初は守られていたことも、自分自身の都合の良い方向に、解釈したり、行動したりしてしまうのもこれからの時期です。常に初心を忘れず、自分を戒めながら学校生活を送ることが大切です。勉強や部活も含め、充実した毎日を過ごせるよう、気持ち新たに後期への一歩を踏み出しましょう！

前期皆勤賞 84名

9月30日（月）前期終業式が体育館で行われました。4月の入学式以降、欠席・遅刻・早退・その他の欠時がなかった生徒に対して、前期皆勤賞の表彰が行われました。1学年の生徒を代表して、川守田 啓雅 君（1年1組）が校長先生から賞状を受け取りました。

1学年普通科実務選択コースでは、約160名の内、1組16名 2組23名 3組22名 4組23名 の計84名の生徒が皆勤賞の表彰を受けました。今回、前期皆勤賞を受賞した皆さんは、年間皆勤賞を受賞できるように現在までの状態を継続してください。

また、今回、惜しくも皆勤賞を受賞できなかった生徒は、後期皆勤賞を受賞できるようにがんばってください。そのためには、自身の体調をしっかりと管理し、余裕を持った登校を心がけることと、欠席・遅刻・早退を絶対にしないという強い意思を持つことで、皆勤賞がぐっと近くなります。前期の生徒より多くの方が後期の皆勤賞を受賞することを期待しています。

今月から後期が始まり、皆さんもついに今年度の折り返し地点に立ちました。前期のうちは初めて経験することやわからないことも多く、先生や先輩に言われた通りに過ごすことも多かったかもしれません。

しかし、皆さんも学福での生活にはもう慣れたはずです。何事にも自分から積極的に、自主的に取り組む、そんな後期にしていきませんか？

皆さんが楽しみにしていた競技大会はつい先日終わってしまいましたが、後期にも芸術鑑賞会や学年の日（芋煮会）、職場見学など、イベントが盛り沢山です。

校内競技大会開催

9月26日（木）～27日（金）に毎年恒例の校内競技大会が開催されました。今年はお隣の福島アリーナでも競技の一部が開催されることとなり、とてもいい環境で競技大会が行われました。

校内競技大会はソフトボール・ミニサッカー・バレーボール・バスケットボール・卓球の5つの球技と大縄跳び・綱引きが行われました。

オリジナルTシャツを準備するクラスもあり、クラスの絆が深まった競技大会となりました。今年度は多くの競技で3年生に花を持たせる結果となりましたが、来年は上位独占をめざして頑張りましょう。

今後の予定

日付	予定
10月14日（月）	体育の日
18日（金）	・月曜授業（振替） ・漢検
22日（火）	即位礼正殿の日

保護者の方へ

日頃より、本校の教育にご理解、ご協力くださいます。誠にありがとうございます。さて、本校は2期制を採用しており、この10月から後期となりました。9月の終わりには前期期末考査が行われ、10月下旬には、期末考査の結果と合わせまして、前期の成績通知表を郵送させていただきます。通知表の到着後は必ず、生徒とともに前期の学校生活と学習状況についてご確認いただき、後期に向けての目標について、ご家庭でもお話し合いいただきますようお願いいたします。

TKP コラム Vol.8

「他人軸という生き方」

学年主任 末松孝治

世の中には「ファッション」とか、「おしゃれ」のようなきらびやかな言葉があります。その一方で、背筋をピッと正してくれるような「身だしなみ」という言葉もあります。どちらも「服装」を一番に連想させる言葉です。

「ファッション（おしゃれ）」とは、「その格好をしている本人が好きで気に入っていれば OK」というものです。周りの人が、「何あれ…」と不快に感じてても関係ありません。だから、奇抜な髪型やアクセサリ、破れたズボンなどでも自分自身が良ければそれでよしの自分を中心とした「自分軸」です。

しかし、「身だしなみ」となると、そういうわけにはいきません。奇抜な髪型やアクセサリ、破れたズボンなどは、「場をわきましろ！」というような厳しい反応や、直接は言われなかったとしても「この人は信用できない」といったネガティブなイメージを相手に与えることが多いでしょう。ですから、「身だしなみ」とは、自分が気に入っていれば良いのではなく、相手に不快な思いをさせない服装や恰好であることを言います。いわゆる TPO をわきまえたものであり、その判断の基準を他人に委ねますから「他人軸」です。

では、学校はというと、当然ですが、ファッション性を重視する場所ではなく、身だしなみを整えて集団生活をする場所ですから、「他人軸」でなければなりません。

さて、私が「自分軸」と「他人軸」の話をするときに、必ず登場するのが、絵本作家の`のぶみさん`です。のぶみさんは40歳で200冊以上の絵本を出版しており、今や名実ともに日本一の絵本作家といっても過言ではありません。

「信実（のぶみ）」という名前が原因で小学校の時にひどいいじめに遭い、不登校になりました。高校時代には池袋連合というチーマー（※詳細は Google で。）の総長にもなりました。その後、保育士の専門学校に通い、好きになった女性が「絵本好き」だとわかり、のぶみさんは「絵本を描いている」とウソをついてしまったことを本当にさせるために絵本を描きはじめました。そして、その女性から「絵本で賞を取ったら、付き合ってもいい」と言われ、毎日図書館に通い6000冊の絵本を読破し、さらに、その日から毎日絵本を描き続けているそうです。

ある日、のぶみさんは絵本コンクールで賞を取り、彼女と付き合うことができるようになり、のちに彼女はのぶみさんの結婚相手となりました。

しかし、のぶみさんは簡単に絵本作家になれたわけではありません。絵本を描いては、出版社に持って行き、ポツになるということを2年間続けたそうです。そして、やっとのことで、デビュー作『ぼくとなべお』（1999年）を出版することができました。実は、

これがいきなりのヒット作になりました。が…。

この後、10冊、20冊、30冊・・・69冊とヒット作に恵まれませんでした。その期間はなんと7年です。絶望のどん底にいたのぶみさんを救ったのは2歳の息子でした。のぶみさんは、新幹線のおもちゃで楽しそうに遊んでいる我が子のために70冊目の絵本を書きました。その70冊目の『しんかんくん、うちにくる』がなんとベストセラーになったのです。

そんな、のぶみさんはあることに気づきます。70冊の絵本を出版してヒットしたのは、たったの2冊でした。デビュー作は当時の彼女のために描きました。70冊目は息子さんのために描きました。1冊目と70冊目は誰かのためにという「他人軸」、残り68冊はとにかく売りたいという「自分軸」で描いた絵本でした。

それ以来、のぶみさんは読み手を喜ばせるための作品づくりを行っています。出版前の原稿をたくさんの人に読み聞かせ、たくさん人の修正を繰り返し、1つの作品をつくようになりました。そして、代表作ともなった『ママがおばけになっちゃった!』は、2015年一番売れた絵本となり、シリーズ累計50万部を突破しています。

「人は誰かのために」と行動した時、とてつもない力を発揮します。そして、周囲もそれを応援してくれます。しかし、自分の利益ばかりに目を向けてしまうとうまくいかないばかりか、誰からも応援してもらえません。

世の中に、「幸せになるための法則」があるとすれば、それは、「自分軸」の生き方より「他人軸」の生き方をする事なんです。

さらに、「幸運の降りそそぐ法則」があるとすれば、それは、「自分軸」の生き方より「他人軸」の生き方をする事なんです。

皆さんも今日から自分軸から他人軸の生き方へと少しずつでも構いませんから変えていきませんか。実践あるのみです。

TKP コラム Vol.9

「あらゆるものを味方につける自然の法則」

学年主任 末松孝治

日本人は、雨や風などの自然現象に季節の移ろいを繊細に感じ取り、さまざまな名前をつけてきました。特に、恵みをもたらす雨の名前には、感心させられるものがあります。

青葉に降り注ぐ恵みの雨を「翠雨（すいう）」、日照り続きの後に降る喜びの雨を「喜雨（きう）」、草木を潤す、しとしとした雨を「甘雨（かんう）」、穀物の成長を促す雨を「穀雨（こくう）」と呼びます。

国語辞典で「恵みの雨」を調べたらこのように書いてありました。

【恵みの雨】1. 大地をうるおして草木を生育させる雨。慈雨。また一般に、天の助けのように降る雨。例「連戦の選手たちには恵みの雨となった」

先月、まさに、この「恵みの雨」が本校、硬式野球部に降りそそいだのです。野球部は9月21日、22日、23日と勝利すると連戦になる厳しい日程の中で秋季県大会を戦い続けていました。そして、21日の準々決勝、22日の準決勝で勝利を収めました。翌23日は決勝戦。しかし、本校は支部予選4試合、県大会3試合を一人の投手が投げ抜いてきました。しかし、3連戦は今回が初めてです。近年、高校野球界では、投手の球数制限や連戦回避が紙面で取り上げられる中、決勝戦をどう戦うかが、本校の一番の課題でもありました。

準々決勝、準決勝も強豪校と対戦し、投手は2日間で230球を超える球数を投げていました。さらに、決勝の相手は強豪校揃いの死のリーグを勝ち上がってきた強者です。準決勝も劣勢を土壇場で逆転勝利し、勢いに乗っていました。相手校について、新聞紙面もこれまでの大会での敗戦校に勝利したこと、今大会の支部予選の初戦で本校とタイブレークまでもつれる試合を行って敗戦していることから、本校に勝利すれば、敗者復活からの「究極の下克上」とはやし立てました。

このまま決勝の当日を迎えれば、本校の投手の疲労に加え、相手校の勢いに飲み込まれることが必至でした。

そして、23日決勝の当日を迎えました。しかし、この日は朝から雨模様。それでも、試合会場に向けてバスを走らせていたとき、雨天順延の連絡が入りました。

本校にとってこの雨は、「恵みの雨」を予感させてくれるものでした。前述したとおり、投手は肩を休められますし、他の選手の疲労回復にもなります。さらに、相手校の勢いに水を差すかたちになるのではと、良い方向に捉えました。もっと言えば、本校は昨年の秋季大会から雨天順延になった翌日の試合は、3戦3勝でした。雨天順延後の試合には負ないというジンクスもありました。

そして、翌日は、朝から抜けるような青空が広がっていました。いよいよ決勝のプレイボール。先ほどよりは雲が広がってきましたが、問題なく、試合が開始されました。試合は当初の予定通り、投手戦が繰り広げられました。前半戦の5回を終わって0-0のまま後半戦に突入しました。その直後の6回表に試合が動きます。相手チームがヒットとデットボールで、2アウト満塁のチャンスをつくり、次の打者がタイムリーヒットで2点を先制しました。その後、上空には雨雲が広がり、

プレイには支障のないくらいの小雨が降ってきました。その中で、一進一退の攻防が続き、8回裏に本校がスクイズで1点を返し、1-2で最終回の攻防へと進んでいきました。9回に入るとそれまでの小雨から強い雨に変わり、グラウンド内に水が浮いてくるようになりました。本校の投手は、その雨に苦しめられながらも、なんとか9回表を0点に抑え、9回裏の本校の攻撃を残すのみとなりました。9回裏さらに雨が強さを増し、グラウンドコンディションが悪くなっていく中で、先頭打者がヒットで出塁、次の打者が送りバントを決めて1アウトランナー2塁。次の打者がフォアボールで出塁し、1アウトランナー1・2塁、次の打者のライトフライの間に2塁ランナーがタッチアップして、2アウトランナー1・3塁。さらに雨脚が強まる中、相手投手の投げた球がうまく指にかからず、暴投となり、3塁ランナーが生還。土壇場で2-2の同点に追いつきました。なおも、2アウトランナー2塁で、2ボールからの3球目、打者が打った球は、左中間のど真ん中に落ち、勝負が決まりました。2塁ランナーが生還し、劇的なサヨナラ勝利。前日ならびに当日の雨を味方につけた本校が53年ぶりの県大会の覇者となりました。

さて、こんなに文明が発達した現代ですが、自然をコントロールすることは、私たちにはできません。しかし、自然やさまざまなツキや運を味方につける方法があると私は考えています。今日はそれをこっそり、皆さんにお教えします。

それは、私が部員たちに常々、話している「目の前に落ちているゴミを拾う」です。さらにこう続けます。「ゴミを拾うと夢を拾う。そして、勝ちを拾う」

「逆にゴミを捨ててはいけないうちに捨てると、夢を捨てるし、勝ちを捨てる」

目の前の小さなゴミに気づかなければ、他者や相手の小さな変化にも気づきません。さらに、目の前の小さなゴミを拾わない人やチームには、自然もツキも運も味方をしてくれることはありません。

もちろん、はっきりとした明確な根拠はありません。しかし、ただ1つ言えるとしたら、これは「自然の法則」なんです。

「ゴミを1つ拾うと、夢（勝ち）を1つ拾う」なんて素敵じゃありませんか。

競技大会の様式



先輩にも負けない!



クラス対抗綱引き
よーい。。。どん!!



ミニゲームも
全力!!

